

# 小学校の国語の授業における成就感をもたせる 学習指導に関する研究

— 単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れて —

石鳥谷町立石鳥谷小学校 教諭 上野尚子

## I 研究目的

小学校学習指導要領の国語科の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」である。この目標の達成のためには、小学校低学年の段階から、計画的に日常生活に必要な話す・聞く、書く、読むなどの基礎的な内容の学習を繰り返し、言語能力の育成を図るとともに、児童の国語に対する関心や意欲を高めていくことが大切である。

しかし、児童の実態をみると、学年が進むにつれて言語能力や学習意欲に差が生じ、単元によっては導入段階から学習に対する関心や意欲の低い児童も見られる。これは、低学年の段階から、学習したことを次の学習と関連付け、既習の学習内容を確実に定着させ、「わかった」「できた」という思いをもたせるような指導が十分になされてこなかったことによるものと考えられる。また、一部の児童の発言を中心に授業を展開しがちで、一人一人に十分に考えさせ、授業に参加したという満足感を個個にもたせるような指導が不足していたことによると考えられる。

このような状況を改善していくためには、既習の学習内容と今後の学習内容との関連を示した単元の指導計画を作成し、単位時間の指導過程に、児童の学習活動を促し確かなものにさせるための「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れることにより、学習内容を理解させ、児童一人一人に小学校の国語の授業における成就感をもたせることが必要である。

そこで、この研究は、単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れることにより、小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導について明らかにし、小学校国語科の学習指導の充実に役立てようとするものである。

## II 研究仮説

小学校の国語の授業において、単位時間の指導過程に、「引き出す」書く活動、「深める」書く活動、「ふり返る」書く活動という三つの「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れ、学習内容の関連を明確にして学習活動を行えば、児童に成就感をもたせることができるであろう。

## III 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

- (1) 小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導に関する基本構想の立案

- (2) 小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導に関する実態調査及び調査結果の分析と考察
  - (3) 単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた学習指導についての指導試案の作成
  - (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察
  - (5) 小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導に関するまとめ
- 2 研究の方法 (1) 文献法 (2) 質問紙法 (3) テスト法 (4) 授業実践
- 3 授業実践の対象 石鳥谷町立石鳥谷小学校 第2学年 1学級 (男子20名 女子20名 計40名)

## IV 研究結果の分析と考察

### 1 小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導に関する基本構想

- (1) 小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導に関する基本的な考え方
  - ア 国語の授業における成就感とは

「授業における成就感」とは、自分自身が学級集団の一員としてともに学び合う仲間であるということ意識する存在感、ともに学習してよかったという満足感、学習内容が「わかった」「できた」という達成感を含むものと考えます。「国語の授業における成就感」とは、言葉を大切に話したり、聞いたり、書いたり、読んだりする言語活動をとおして学習内容を身に付けるとともに言葉のもつおもしろさに気付いたり、学習成果を認め合ったりすることにより、国語の学習のおもしろさに気付くことであるととらえます。

そこで、本研究が目指す小学校の国語の授業における成就感をもった児童の姿を「単位時間の指導過程での話す、聞く、書く、読むという言語活動をとおして学習内容を理解し、国語を学習することのおもしろさに気付く児童」ととらえます。なお、

ここでいう言語活動とは、授業において日常的に行われている話す、聞く、書く、読むという言語活動のことをいう。そして、本研究における小学校の国語の授業における成就感は「学ぼうとする力」「わかる力」「認める力」の三つの要素から構成され、それぞれが意識と力から成っており、その意味を【表-1】のようにとらえます。これらの構成要素は、単位時間の指導過程のなかで、言語活動を繰り返し行っていくことにより培われていくものであると考える。

【表-1】小学校の国語の授業における成就感の構成要素

構成要素	意味	児童の姿
学ぼうとする力	意識 学習への期待感 方 話をしっかり聞く力、自分の考えをもつ力	国語の時間を楽しみにしている。指示にしたがって活動する。「こうだろう」と考える
わかる力	意識 達成感 方 学習内容を理解する力	「やった」「できた」という思いをもっている。学習内容を理解する
認める力	意識 満足感 方 自分の学習をふり返り、成果を認める力、友だちの学習のよさを認める力、学び合うことのよさに気付く力	国語の学習のおもしろさに気付いている。自分の学習をふり返り、できるようになったことがわかる。友だちの学習のよさがわかる。友だちといっしょに活動することのよさがわかる

- イ 小学校の国語の授業における成就感をもたせることの意義

小学校の国語の授業における成就感を児童一人一人にもたせるためには、授業において日常的に行われている話す、聞く、書く、読むという言語活動をとおして学習内容を理解させ、児童に「やった」「できた」という達成感をもたせることが大切である。その過程で児童は言葉のもつおもしろさに気付いたり、新しい言葉を知ることの喜びを実感したりすることができ、次の学習への期待感を育成することができる。よって、国語の授業における成就感をもたせることは、国語の学習に対して関心や意欲をもって取り組む児童を育成するための土台づくりとなるという点で意義があると考えます。

- ウ 既習の学習内容と今後の学習内容との関連を示した単元の指導計画を作成することの意義

国語は他教科と比べ、児童が自分の学習の積み重ねを意識しにくい教科である。だからこそ教師は授業の前に本時の学習内容が事前のどの学習と関連し、今後、どの学習へとつながっていくのかを明確にしたうえで授業にあたるのが大切である。そこで、単元間の学習内容の関連と単位時間ごとの学習内容の関連を示した単元の指導計画を作成し、それをもとに学習内容の関連を意識させながら指導していくことにより、一単位時間の達成感が継続したものとなり、成就感につながれると考える。

(2) 単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れる意義

ア 「個々の思考を助ける書く活動」とは

「書くこと」には、【表-2】のようなよさがある。よって、「書くこと」は日常行われている、話す、聞く、書く、読むという言語活動を支える大切なものであると考える。本研究における「個々の思考を助ける書く活動」とは、日常の学習のなかで行っている、話す、聞く、書く、読むという活動に、児童一人一人が確実に取り組むことができるようにするために、一人一人に学習の場を保障し、それをもとに次の学習活動に参加できるようにするための書く活動である。この活動を取り入れることにより、一人一人が単位時間のねらいに迫りやすくなり、成就感ももたせることができると思う。

イ 単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れることの意義

国語の授業における成就感をもたせるためには、単位時間に満足感や達成感を味わわせること、そして、それを継続させることが大切である。そのためには、一人一人が学習に取り組むための時間を授業のなかに保障し、個々の考えをもたせて授業に参加させることを繰り返すことが大切である。そこで、「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れることは、次の三つの点で意義のあることである。

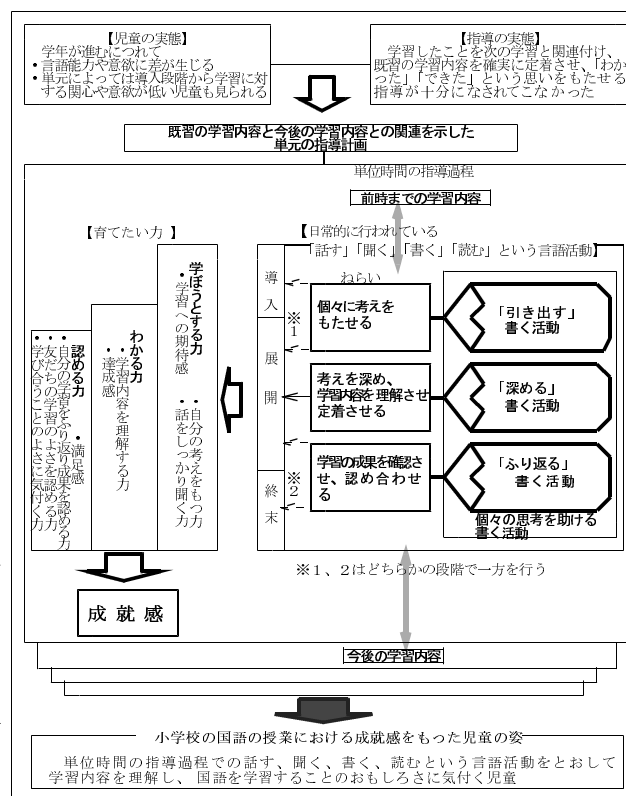
- ① 一人一人に考える時間が保障される
- ② 書いたものが自分の学習の成果として蓄積され、達成感が得られる
- ③ 書いたものを使って授業が展開できることから、話す、聞く、書く、読むという日常行われている言語活動が活性化し、授業に参加しているという満足感が味わえる

(3) 単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた学習指導の展開

基本的に、導入段階か展開段階のはじめに「引き出す」書く活動を、展開段階に「深める」書く活動を、展開段階の後半か終末段階に「ふり返る」書く活動を位置付ける。この活動は学習のねらいに到達させるために行う書く活動である。そこで全員に確実に考えをもたせて次の学習活動に向かわせたい「確認しておきたい場面」や、ねらいに迫るために考える時間を保障して一人一人にじっくりと

【表-2】「書くこと」のよさ

児童にとってのよさ	教師にとってのよさ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心に秘めた思いを言葉でしっかり認識する</li> <li>・言葉によって考え、自分の考えや立場を確立する</li> <li>・不確かなこと、忘れやすいことが自分のものとして定着する</li> <li>・頭のなかの思いを整理し確かめる</li> <li>・注意力、集中力、持続力を養う</li> <li>・書いたという行動そのものが自信、喜びとなる</li> <li>・授業においては、書いたものをもとにして、次の言語活動へ意欲をもって取り組む姿勢ができる</li> <li>・学習の成果を客観的に見たり、学習の成果を確かめることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学習の状況を知ることができる</li> <li>・個に応じた指導に生かすことができる</li> <li>・授業後にゆとりをもって全員にコメントを記入できる</li> <li>・授業を振り返ることができ指導方法の反省ができる</li> <li>・書いたものをもとに、次時の授業を構成することができる</li> </ul>



【図-1】小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導に関する基本構想図

考えさせたい「立ち止まって考えさせたい場面」に取り入れる。

(4) 小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導に関する基本構想図

これらの基本的な考え方にに基づき、小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導に関する基本構想図を前頁【図-1】のように作成した。

2 小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導に関する実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査のねらいと内容  
(本資料においては省略する)

(2) 調査結果の分析と考察  
(本資料においては省略する)

(3) 指導試案作成上の留意点

【表-3】指導試案作成上の留意点

指導試案作成上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことが児童の負担にならないようにする</li> <li>・話すときには相手に聞いてもらうための話し方を意識するとともに、聞く側の態度としての正しい姿勢を意識させる</li> <li>・書かせる量や内容を精選し、全員が確実に書けるようなものにする</li> <li>・教師の板書を見ながらいっしょに書かせるなどの工夫をし、安心して正しく書くことができるように配慮する</li> </ul>

調査結果から明らかになったことにより、指導試案作成上の留意点を【表-3】のようにまとめた。

3 単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた学習指導についての指導試案

(1) 指導試案

単位時間の指導過程のなかで、学習のねらいに到達させるために、全員に確認しておきたい場面や、一人一人にじっくりと立ち止まって考えさせたい場面に、「引き出す」書く活動、「深める」書く活動、「ふり返る」書く活動という三つの「個々の思考を助ける書く活動」を段階を追って取り入れる。

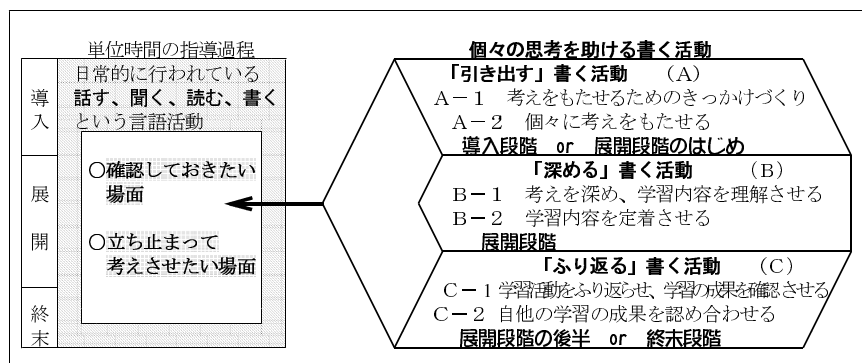
「引き出す」書く活動 (A) は、これからの学習に一人一人が確実に取り組むことができるようにするための活動である。まず、一人一人に考えをもたせるためのきっかけづくりの書く活動 (A-1) を行い、次に、一人一人に考えをもたせるための書く活動 (A-2) を行う。なお、A-1 では、全員が手軽に取り組めるものとし、A-2 では書く視点を与えてから書かせるように配慮する。

「深める」書く活動 (B) は、考えを深め、学習内容を理解させ定着させるための活動である。一人一人がもっている考えを深め、学習内容を理解させるための書く活動 (B-1) と、学習内容を定着させるための書く活動 (B-2) の二つがあり、単位時間の学習内容に応じて、どちらか一方、あるいは両方を行う。なお、B-1 では、書かせる内容や量を考慮し、B-2 では、例示をしてから書かせるなど、児童が抵抗なく取り組めるように配慮する。

「ふり返る」書く活動 (C) は、学習内容をふり返らせ、学習の成果を確認させ、認め合わせるための活動である。学習活動をふり返らせ、学習の成果を確認させるための書く活動 (C-1) と、自他の学習の成果を認め合わせるための書く活動 (C-2) の二つがあり、単位時間の学習内容に応じて、どちらか一方、あるいは両方を行う。なお、C-1 では、単位時間のまとめとなるような内容を書かせ達成感につながられるようにするとともに、C-2 では、自他を認め合わせることで友だちといっしょに活動すること

のよさに気付かせるように配慮する。これらの活動では、常に個々の実態に応じた弾力的な指導を心がける。

基本的には全時間でこの活動を行うが、学習内容や児童の実態によってはいずれかを省略する場合もある。以上のこと



【図-2】単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた学習指導についての指導試案

をまとめたものが前頁【図-2】である。

なお、本研究における「書く活動」は、鉛筆を持って行う活動のことであり、文字を使って記述するだけではない。線を引いたり、丸などの記号を付けたりすること、場合によっては、絵をかくこともある。また、ノートに書くことが中心ではあるが、直接教科書に書き込んだり、カードやシートに書いたりすることもある。これまで述べてきた「個々の思考を助ける書く活動」の種類、内容、授業のなかでの活動を具体的に示したものが【表-4】である。

(2) 検証計画及び調査計画

ア 構成要素の検証計画

授業実践をとおして指導試案の妥当性をみるために、【表-5】【表-6】のような検証計画を作成した。

イ 授業実践にかかわる調査計画

指導の手だてが児童にどのように受け止められたかを確かめるために、【表-7】のような調査計画を作成した。

4 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 単元「あったらいいな、こんなもの」、小単元「かん字クイズ」、単元「サンゴの海の生きものたち」の指導計画及び学習指導案

(本資料においては省略する)

(2) 単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた授業実践の概要

ア 授業実践の計画

(ア) 授業実践の期間

平成14年 8月27日  
～9月27日 (23日間)

(イ) 指導計画

- ・単元「あったらいいな、こんなもの」14時間
- ・小単元「かん字クイズ」3時間
- ・単元「サンゴの海の生きものたち」11時間

イ 授業実践の概要

指導試案に基づいて作成した学習指導案にしたがい授業実践を行った。次頁【資料-1】は、「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた授業実践の一場面、7頁【資料-2】【資料-3】はノートの記述例及び授業の概要である。

【表-4】「個々の思考を助ける書く活動」の種類と内容

種類と段階	内容	授業のなかでの活動
「引き出す」書く活動 (A) 導入段階 or 展開段階のはじめ	A-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えをもたせるためのきっかけづくり</li> <li>学習への課題意識をもたせるために、学習課題を書く</li> <li>誰にあてて書くのか、相手の名前を書く</li> <li>文の内容を確かに読み取らせるために、主語と述語に線を引く</li> <li>登場人物を確認させるために、登場人物に線を引く</li> </ul>
	A-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々に考えをもたせる</li> <li>登場人物の気持ちを考えさせるために、会話文を視写する</li> <li>これからの学習への課題をもたせるために、初発の感想を書く</li> <li>何について話すのか目的をはっきりさせるために、自分が伝えたことをメモする</li> </ul>
「深める」書く活動 (B) 展開段階	B-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えの深まりと学習内容の理解</li> <li>比べて聞く力を付けさせるために、友だちの発言を聞いて、同じだったこと、違っていたことを書く</li> <li>内容の理解を深めさせるために、自分の言葉で言い換える</li> <li>言葉に含まれている思いを読み取らせるために登場人物の気持ちを書く</li> <li>話し合っただけで決まったことを書く</li> <li>読みを深めさせるために、読み取った内容に対しての感想を書く</li> <li>友だちの書いた文章を視点に照らして読み、気になったことを書く</li> <li>書いたものを友だちとどうし確認する</li> </ul>
	B-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の定着</li> <li>言葉の使い方を確かなものとさせるために、短文作りをする</li> <li>漢字の使い方に慣れさせるために、漢字を使った短文作りをする</li> </ul>
「ふり返る」書く活動 (C) 展開段階の後半 or 終末段階	C-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふり返りと学習の成果の確認</li> <li>学習内容を確認させるために、学習してわかったことを書く</li> <li>次の学習への関心をもたせるために、読み取ったことをもとに不思議に思ったことを書く</li> <li>小テストをする</li> </ul>
	C-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の成果の認め合い</li> <li>学習の達成感をもたせるために、自分の学習でのがんばりを書く</li> <li>友だちとともに学ぶことのよさに気付かせるために、友だちの学習から学んだことを書く</li> <li>友だちの書いたものに一言感想を書く</li> </ul>

【表-5】検証計画

検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
小学校の国語の授業における 達成感の育成状況 <構成要素> ・学ぼうとする力 ・わかる力 ・認める力	・質問紙法 (評定尺度法)  ・ノート、カードへの記述内容 ・学習活動の様子  ・小テスト ・単元テスト	・意識の変容については、評定尺度の質問紙法により、実践前後に実施し、プラス変化、マイナス変化の割合から、 $\chi^2$ 検定 (変化の検定) により分析し、考察する。 ・力の育成状況はノート、カードへの記述内容を【表-6】の判定基準を用い分析し、考察するとともに、学習活動の様子を参考に分析し、考察する。 ・わかる力については小テストや、単元のテストにより客観的に把握する。その際、児童の意識の状況も調べ、関連があるかを分析し、考察する。

【表-6】児童のノート、カードへの記述内容及び学習活動の様子をみる判定基準 ※ ( ) は学習活動の様子

力	意味	A	B	C	D
学ぼうとする力	話をしっかりと聞ける	指示された内容を的確にとらえて書くことができている (活動している)	指示された内容をとらえて書くことができている (活動している)	指示された内容以外のことを書いている (指示された内容以外の活動をしている)	指示を聞かないために何も書くことができない (何の活動もできずにいる)
自分の考えをもつ力	自分の考えをもち、自分の考えをしっかりと書いている (もっている)	自分の考えをしっかりと書いている (もっている)	自分の考えを書いている (もっている)	自分の考えをまとめられずに書いている (まとめられない)	自分考えを何も書くことができない (もつことができない)
わかる力	学習内容を理解する	本時の学習のねらいに十分に到達した内容を書いている (とらえている)	本時の学習のねらいにおおむね到達した内容を書いている (とらえている)	本時の学習のねらいに到達するには、不十分な内容を書いている (とらえている)	何も書くことができない (本時の学習内容を理解していない)

【注】 A 十分に満足 B おおむね満足 C 努力を要する D 一層努力を要する  
B を授業においておおむね達成できたと考える ~~~以下は、本資料では省略する

【表-7】調査計画

調査項目	調査内容	調査方法	処理・解釈の方法
「個々の思考を助ける書く活動」についての意識の状況	手だてがどう受け止められたか	質問紙法 (評定尺度法)	実践後に意識調査を行い分析し、考察する

**【資料-1】「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた授業実践**

A-1、A-2、B-1、B-2、C-1、C-2は、指導案の「個々の思考を助ける書く活動」の種類を、→は「個々の思考を助ける書く活動」がその後の言語活動にどう生かされるかを、□は児童の活動のねらいを、○は期待する児童の姿を、○は学習内容の関連を明確にした学習活動を表している。

<p>&lt;前時の学習活動&gt;                  目標・「あったらいいな。」と思うものに興味をもち、考えることができる。                  児童の学習課題 「どんなものがあったらいいか考えよう。」                  授業の概要 「ドラえもん」のビデオを見た後、それをヒントに、「あったらいいな。」と思うものを書き出す。                  児童の様子 自分が「あったらいいな。」と思うものをなかなか考えられず、学習の終わりに、自分の考えをもてなかった児童(何も書くことができなかった児童)が35%であった。</p>			
<p>(3時間/14時間) 本時の目標 ・どんなものがあったらいいと思うか、具体的に考えることができる。</p>			
段階	学習活動及び内容 <留意点>	関連	教師のはたらきかけ (T) 児童の反応 (C) ○ 児童の活動
導入	1 前時の学習をふり返り、本時の学習課題を知る。 <前時の学習を想起させる> 「引き出す」書く活動 (A-1) →発明品を考える学習への意欲付け	前時にも考えたことを想起させ、学習に抵抗なく取り組ませる	T 2時間目は、すごく悩んだ人が多くて、まだ考えついていない人も半分くらいいました。この時間にごんばって書きましょう。この時間は、2年2組のお友だちみんなにすごい人になってもらいます。「はつめいか」って聞いたことがありますか。 C エジソンみたい。 T 学習のめあてを書きましょう。 ○ 学習課題を書く。(A-1)
	2 どんなものがあったらいいか考えて書く。 <前時に考えられなかった児童にも、また考える時間を与え、発明家になれるようにと励ます> 「引き出す」書く活動 (A-2) →自分の考えをもつことにより、次の書く活動に自分なりの考えをもつてのぞむことになり、わからないことを尋ねることができる	前時に書いたノートのメモをもとにして考えさせ、思考を途切れさせない	T ドラえもんの道具を書いている人もいたけど、みんな一人一人が「発明家」になるので、自分だけの発明品を考えてね。さっきの時間に考えた人も、もうちょっと考えて、書き足してください。 ○ 自分の発明品を考えて書く。(A-2) (5分間) (前時のノートに書き足す児童も半数くらい)
展開	3 教師の発表を聞き、もっと知りたいことを発表する。 <それを読んだだけではよくわからない内容を意図的に発表し、もっと知りたいことをたくさん考えさせる>		T みんなすごくいい物を発明していました。みんなの発明品を紹介したくてたまらないんだけど、今回自分の発明品を発表する学習をします。だから、言いたくても今は言えません。そこで今日は私が考えたものをみんなに紹介します。 (黒板に書く。) 「ちゃんとおこしてくれるもの。」 C 絵でかいて。 T わかった、寝坊するんだ。(つぶやき) T 私の発明品を紹介します。私は、ちゃんと起こしてくれるものがあったらいいなと思いました。これで、よくわかりますか。 C わかった。 T では、もうちょっと聞きたいことはありませんか。質問してください。 (児童の発表を黒板にまとめて書いていく。) C 何時に起こしてくれませんか。 T 使い方を詳しく話してあげてくださいね。 C 大きいですか、小さいですか。 C 音の大きさはどれくらいですか。 C 色は何色ですか。 T 前の時間にもう色まで書いている人もいましたよ。すごいなあと思いました。 C どんな形なんですか。 T 絵でかいていないからわからなかったんだね。もう絵でかいている人がたくさんいました。すごいですね。 C 水の中でも鳴りますか。 T 使う場所ということですか。 C 乾電池何個使いますか。単2ですか、単3ですか。 C カッコいいですか。.....
	4 発明品について書き足す。 <板書を見ながら考えさせる> 「深める」書く活動 (B-1) →第5時に、ふたり組んで発明品を話し合う学習をするときに、このノートの記述を見ながら話す	第5時に、ふたり組んで「あったらいいなと思うもの」を話し合うときの参考にする	T いっぱい質問が出ました。それだけ、私の発明品がどんなものか、みんなにはつきり伝えられなかったわけですね。発明家になるためには、これ(「ちゃんとおこしてくれるもの」)を指差して)だけではだめですね。もっと詳しく書いていけば質問は出なかったかもしれない。では、今からさっき書いた発明品をよく読んで、詳しく説明しているか振り返ってください。 黒板もよく見てください。読んだ人がすごいと言ってくれるような発明をしてください。 ○ 板書を見ながら、自分の発明品に書き足す。(B-1) 書きながら、「あ、名前まだ書いていない。」の声。 T いろいろなことを考えて決まったら、名前をつけてみましょう。(10分間くらい)
終末	5 本時をふり返り、友だちの発明品に感想を書く。 「ふり返る」書く活動 (C-2) 元気カード カードを読んだ友だちに次の学習への元気を与えるカード 色つきの付箋で、大きさは目的によって変えるが、本時は初めての活動なので大きめのもの(直径75mmの正方形)を使用	第10、11時の発表会で「元気カード」記入のときに想起させる	T これから、このカードについて説明します。名前は「元気カード」といいます。なぜ、「元気カード」にしたかという、読んだ友だちを元気にするからです。みんな、すごい発明をしていました。これから、となりどうし交換してお友だちの発明品を見せてもらってください。そして、いいところをほめてください。もしも、お友だちがまだよく考えていなかったら、励ましの言葉を書いてください。友だちを元気にする紙だからいいことを書かなきゃだめですよ。最後には、必ず自分の名前を書いてください。 書いたら、ノートに貼ってあげてください。 C とわりどうし交換して読み。 ○ 元気カードを書く。(C-2) (5分間) →がんばって学習したという思いをもたせ、次の学習への期待感につなげる
	6 次時の学習内容を知る。		T 今日は、私からもみんなに元気カードをあげたいと思います。ノートを貸してもらっていますか。 C いいよ。 T 明日は、今日考えた発明品をもとにして発表するものを作る学習をします。
<p>[授業の考察]                  ・自分の発明品をみんなにわかってもらうために詳しく書き足す(B-1)ときには、児童から出された観点を参考にさせたが、それぞれについて書いているかを確かめながら詳しく書き足すことができた。                  ・初めての「元気カード」を書く学習では、友だちのよさを何とか表現しようとしていた。「ふり返る」書く活動で、元気カードに書く活動は、児童に満足感をもたせることができた。と考える。</p>			
<p>&lt;次時の学習活動の様子と考察&gt;                  ・「元気カードを読んだ元気になりましたか。」との問いかけに、「元気にはならなかったけど、うれしかった。」との声が多く聞かれた。                  ・ふたり組んで話し合うときに気を付けることについて学習した。「話し合うこと」は初めての学習であったため、話し合いのイメージをもたせることが難しかった。</p>			





(3) 実践結果の分析と考察

ア 小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導についての構成要素の育成状況

国語の授業における成就感の三つの構成要素の育成状況を、5頁【表-5】【表-6】の検証計画に基づき分析し、考察した。

【表-8】学ぼうとする力に関する意識の変容状況

(ア) 学ぼうとする力の育成状況

【表-8】は、学ぼうとする力に関する意識の変容状況についての検定結果(χ<sup>2</sup>検定)である。①で有意差が認められた。これは、授業のねらいに沿った「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れてマンネリ化させないようにしたことや、互いに認め合う活動を取り入れ、満足感をもたせたことにより高められたと考える。しかし、②、③では有意差が認められなかった。今後は、指導過程のなかで、「できた」という思いを大切に学習活動を進めることによって、児童に自信をもたせる指導が大切である。ただ、調査内容②、③の変容状況についてみると、プラス反応に傾いていることから、児童の意識は高まる傾向を示していると考えられる。

N=40 (単位:人、Nは児童数)

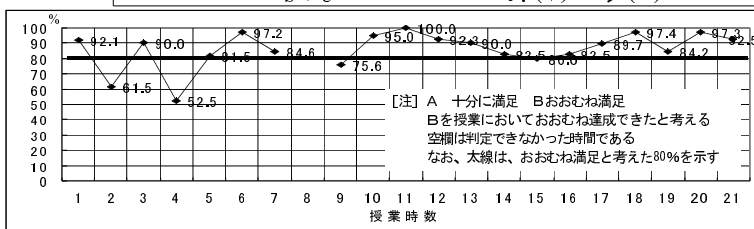
調査内容	事後		合計	χ <sup>2</sup> の値
	事前	+		
①国語の時間が来るとき、「楽しみだな」という気持ちになりますか	+	2 2	1 7	7. 3 6 *
	-	1 0	7 1 7	
	合計	3 2	8 4 0	
②国語の時間に、先生や友だちの話をよく聞いていると思いますか	+	2 7	3 3 0	0. 4 4
	-	6 4	1 0	
	合計	3 3	7 4 0	
③国語の時間に、先生から質問されたとき、自分があてられなくても「私はこう思う」と考えますか	+	2 4	3 2 7	2. 2 7
	-	8 5	1 3	
	合計	3 2	8 4 0	

【注】1 事前調査は8月27日、事後調査は9月26日に実施したものである。  
 2 各調査内容の意識を、アイウエの四肢選択で問い、ア・イはプラス反応であり、エはウより強い反応である。  
 3 \*は有意水準5%で有意差が認められたことを示す。  
 4 χ<sup>2</sup>検定に用いた公式は次に示すとおりである。  

$$\chi^2 = \frac{(b-c)^2}{b+c}$$
 但し、 $b+c \leq 10$  のとき  

$$\chi^2 = \frac{(b-c|-1)|^2}{b+c} \quad \text{※ } b: (-) \rightarrow (+)$$

$$c: (+) \rightarrow (-)$$



【図-3】学ぼうとする力の育成状況

以上のことから、有意差はみられないものの、児童の意識は高まる傾向を示していると考えられる。

また、【図-3】は学ぼうとする力の育成状況を調べるために、ノートやカードの記述をもとに5頁【表-6】の判定基準によって分類し、AとBの人数の合計の割合を表したものである(以下、力の育成状況については同様)。18時間で「おおむね達成」と考えた80%を超えていることから、学ぼうとする力は各単位時間ではおおむね育成されていると考えられる。これは、教科書に線を引くなどの簡単な書く活動や、一つでいいから書くなど、児童が安心して取り組める書く活動を取り入れたこと、また、前時の学習をふり返りながら学習を進めることで、児童の思考を途切れさせなかったことによると考えられる。また、達成できなかった原因については、書く活動の時間が不足していたこと、初めての学習に対して児童の抵抗を取り除けなかったことによると考える。

(イ) わかる力の育成状況

【表-9】わかる力に関する意識の変容状況

【表-9】は、わかる力に関する意識の変容状況についての検定結果である。④、⑦ともに有意差は認められなかった。これは、④については授業のなかで、「わかった」と思わせる配慮が足りなかったため、⑦については、授業実践が長期間で、複数の単元にわたったことから、学習状況のどこに焦点を絞って書いたらよいかわからない児童も多かったためと思われる。ただ、調査内容の変容状況についてみると、プラス反応に傾いていることから、児童の意識は高まる傾向を示していると考えられる。以上のことから、有意差はみられないものの児童の達成感の高まる傾向を示していると考えられる。

N=40 (単位:人)

調査内容	事後		合計	χ <sup>2</sup> の値
	事前	+		
④国語の時間に、学習していることがよくわかりますか	+	2 6	1 2 7	0. 8 0
	-	4 9	1 3	
	合計	3 0	1 0 4 0	
⑦国語の時間に「やった」「できた」という気持ちになりますか	+	2 3	4 2 7	3. 2 7
	-	1 1	2 1 3	
	合計	3 3	6 4 0	

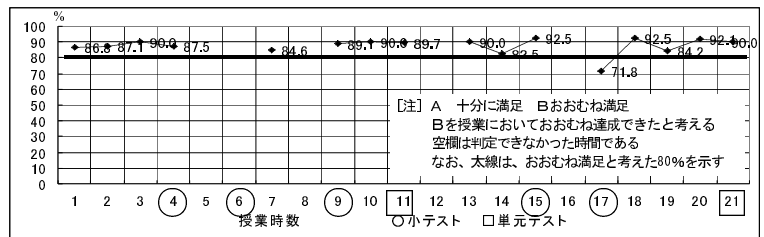
【注】【表-8】と同じ

また、次頁【図-4】は、わかる力の育成状況を表したものである。17時間目を除いておおむね満足できる結果となっていることから、わかる力はおおむね育成されているといえる。これは、毎時間

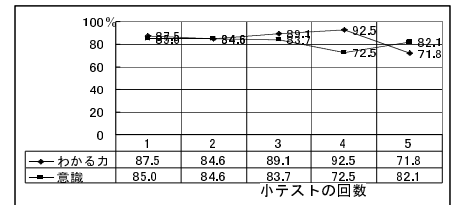


「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れて考えさせる場を保障したこと、既習の学習内容との関連を図りながら指導したことによると考えられる。一方17時間目は教師が与えた学習内容が多すぎたことにより不十分であったと考える。

また、【図-5】は、わかる力と達成感の関連をみるために、小テストでの達成率と意識の関係を表したものである。4回目の結果は、達成率に比べて意識が低い結果となっている。これは、【図-4】わかる力の育成状況



教師が児童に行かせた「書く活動」が、児童にとっては負担であり、学習内容を理解してはいるものの「わかった」という思いをもつことができなかつたと考える。児童に負担を感じさせずに達成感をもたせる書く内容の工夫や、書かせるタイミングも考慮していくことが大切であると考えられる。

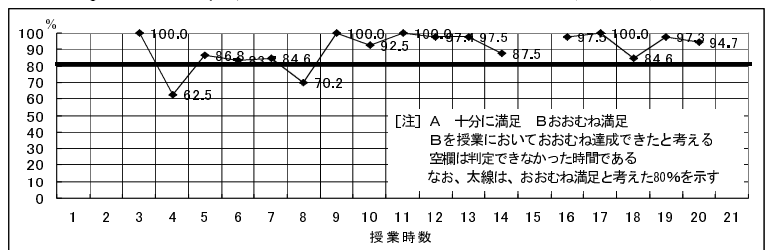


【図-5】わかる力と意識のかかわり  
【表-10】認める力に関する意識の変容状況  
N=40 (単位:人)

(ウ) 認める力の育成状況  
【表-10】は、認める力に関する意識の変容状況についての検定結果である。⑨で有意差が認められた。これは、自分の学習をふり返る活動を取り入れたことにより、よさを認めようとする意識を高めることができたこと、また、「元気カード」記入の活動を多く取り入れたことにより、学習への期待感を高められたことによると考えられる。一方、有意差がみられなかった原因としては、ほとんどの児童が授業で友だちといっしょにしっかりと活動していたものの、必ずしも楽しさを感じていたとはいえなかつたこと、どの時点での意識を答えてよいかわからなかつた児童もいたことであると考えられる。ただ、調査内容⑤、⑥、⑧、⑩の変容状況についてみると、プラス反応に傾いていることから、児童の意識は高まる傾向を示していると考えられる。

調査内容	事後		合計	$\chi^2$ の値
	+	-		
⑤国語の時間に友だちの話や音読を聞いて「よく考えたな」とか「じょうずだな」と考えますか	2	5	7	0.00
	5	6	11	
合計	3	11	14	
⑥国語の時間に友だちといっしょに話し合ったり書いたものを読み合ったりすることをどう思いますか	2	4	6	2.27
	8	5	13	
合計	3	9	12	
⑧国語の時間の終わりに「がんばって勉強した」と思いますか	2	3	5	1.67
	1	2	3	
合計	3	5	8	
⑨国語の時間の終わりに、「昨日よりもできるようになった」と思いますか	1	3	4	6.25*
	1	8	9	
合計	2	11	13	
⑩国語の時間が終わったとき、「国語の学習がおもしろかった」という気持ちになりますか	1	4	5	3.27
	1	7	8	
合計	2	11	13	

また、【図-6】は認める力の育成状況を表したものである。4時間目と8時間目を除いて、ほぼ90%の児童がおおむね満足できる結果であった。これは、書いたものを友だちどうし認め合うための学習を多く取り入れたことやノートにコメントを書いたり、児童が書いたものをみんなに紹介したりしたことにより高められたと考えられる。また、記号によるふり返りは、自己評価になるとともに、次の学習への意欲付けとも



【図-6】認める力の育成状況  
なり、認める力の育成に有効にはたらいたと考える。

イ 「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた授業についての意識

5頁【表-7】の調査計画に基づき意識調査を行った結果、学級全体の70%以上の児童が肯定的な回答をしていた。このことから、指導試案に基づく「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた授業は、児童におおむね好意的に受け止められたと考えることができる。ただ、マイナス反応を選んだ7名の児童についても、感想をみると、4名は「おもしろかった」「すこし楽しかった」という記述をしていたことから、必ずしも全面的な否定ではないと考える。

以上のことから、構成要素の三つの力はおおむね高まっていると考えられる。

## 5 小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導に関する研究のまとめ

これまで、指導試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その妥当性について検討してきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

### (1) 成果

ア 書いたものを読み合い、「元気カード」に記入するなどの認め合う活動を取り入れたことにより、児童の満足感や達成感を高めるとともに、次の学習への期待感も高められたこと。

イ 文章で表現するだけでなく、記号による簡潔な方法でのふり返る書く活動を取り入れたことは、次の活動への目標をもたせるとともに、力の育成のための意欲付けともなったこと。

ウ 既習内容との関連を図りながら意図的に書く活動を位置付けながら授業を展開したことは、児童に学ぼうとする意識をもたせるとともに、理解する力を高められたこと。

エ 毎時間、書く活動の時間を保障し活動させたことにより、児童が意欲的に学習に取り組み、授業実践の後に「がんばった」「楽しかった」という感想を多くもてたこと。

### (2) 課題

ア 実践が5週間にわたり、複数単元の指導を行った場合の児童の意識の変容状況を適切にとらえるための、調査の内容、時期、回数、方法等を見直すこと。

イ 児童が、負担を感じることなく、書くことによって達成感につながられるようにするための書く活動となるように、内容や量をさらに工夫すること。

以上のことから、単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた学習指導についての指導試案は妥当であったと考えられる。

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

この研究は、単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れることにより、小学校の国語の授業における成就感をもたせる学習指導について明らかにし、小学校国語科の学習指導の充実に役立てようとするものである。その結果を、学ぼうとする力、わかる力、認める力の三点の育成状況について分析と考察を加えることにより、仮説の有効性の検討にあたってきた。その結果、単位時間の指導過程に「個々の思考を助ける書く活動」を取り入れた学習指導は、小学校の国語の授業における成就感をもたせるうえで有効であることが確かめられた。

### 2 今後の課題

(1) 「個々の思考を助ける書く活動を」を学年や教材にかかわらず常に取り入れた授業を展開することによって、児童に国語の授業における成就感をもたせられるかを、授業実践をとおして確かめること。

(2) 児童が自分の考えをしっかりもち、次に行われる言語活動に確実に取り組むことができるような「個々の思考を助ける書く活動」の内容を実践をとおして明らかにすること。

### 【主な参考文献】

田近洵一著 「国語教育の方法 ことばの『学び』の成立」 国土社 1997年